

算命中庸

【初年】 3 1 回目

3 1 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【十大主星特性③】

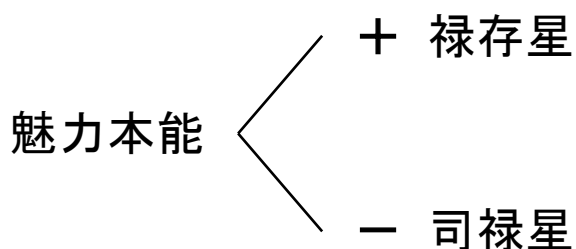
参考：特性〔そのものが他と異なって特に備えもつ特有の性質〕

・【初年】 3 1 回目 【十大主星特性③】 01

➡ 禄存星・司禄星

ろくぞんせい し ろくせい みりょくほんのう
禄存星と司禄星は魅力本能の星です。

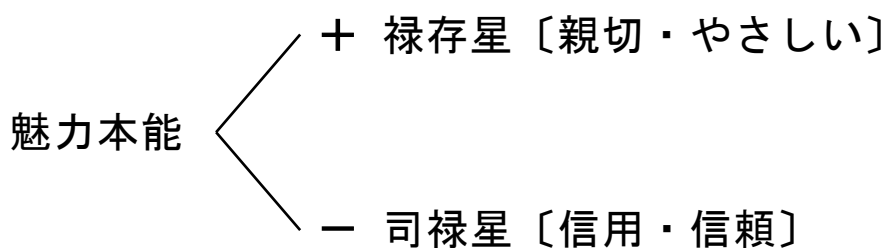
魅力本能にも、陽の魅力の星・陰の魅力の星があります。



魅力本能は〔人から好かれない〕〔よく思われたい〕

〔愛されたい〕〔人気を得たい〕そのような本能です。
相手から好かれない、相手からよく見られたいなあ…とおもったら——どうなさいますか？

その人に〔優しくしてあげる〕とか〔親切にしてあげる〕とか、そのようにするとおもいます。



“親切でやさしい星” 禄存星の特徴です。

（陽）の魅力をもつ禄存星は主体性があります。自分からじかに働きかけます。その人に直接〔やさしく親切にする〕そのような接し方をします。

陽の魅力は活動的に相手の心を引きつけようとします。

参考：魅力〔人の心をひきつけ、夢中にさせてしまう力〕

参考：働く〔知的・精神的能力が発揮される〕〔努力すること・力をつくすこと〕

参考：活動的〔積極的に働きかけ、行動するさま〕

司禄星の主体性のない（陰）の魅力は、どのような魅力なのかといえば、算命学ではつぎのように考えています。陰の魅力は相手に直接働きかけないで、地道にコツコツと信用を積み重ねることで信頼を築きます。

司禄星は“信用・信頼”という魅力を発揮して、相手の心を魅きつけます。それは陰の魅力だと考えています。普段から真面目にきちんと生活していれば、自然にまわりの人たちから、信用されるようになります。

〔あの人にまかせておけば大丈夫〕 そういう信頼を得れば〔すぐれていて好ましい〕という評価を得たのとおなじです。まわりの人たちが好意を抱いてくれたわけです。地味な魅力の発揮ですが、結果的に相手の心をひきつけます。

参考：信用〔それまでの行動や業績から、信頼できるものと認めること〕

参考：信頼〔信じて頼ること〕〔信用してまかせること〕

参考：信頼〔信じて頼ること〕〔信用してまかせること〕

（陽）と（陰）の違いを、まずは頭に入れておいてください。

☞ 禄存星から話を進めます。

☆ 禄存星

ろくぞんせい
禄存星 ⇒ 魅力（陽）

禄存星は「親切でやさしい星」とおもわれている星です。

親切でやさしい人なら、人から好かれるでしょう。

よい人・善い人——そのように想われるでしょう。

その意味合いを直線的に発揮します。

禄存星は陽星ようせいですから、相手に直接、やさしくしたり、親切にします。

それゆえ「人から好かれやすい星」という意味になるわけです。

禄存星は、基本的にどなたに対しても、親切でやさしく接する質をもっています。

誰にでも、親切でやさしくできる ⇒ 人から好かれやすい

ただし、相手がいることなので「必ず、好かれる」とは、いい切れません。

やさしくしたら、相手は「やめてっ」と、言われるかもしれないし、「不快だわ」となるかもしれません。

他人様はそれぞれ違います。禄存星をもっているから、誰にでも好かれるとは言い切れません。

禄存星を躍動するように活かすと、思いやり・心づかいとかを相手に感じさせますので、好ましい人だと受け入れられて、人気につながりやすいといえます。

人気を得やすい

さらに、愛想あいそがよくて、楽しい人、明るい雰囲気ふんいきの人、というふうになれば、なおさら好かれます。

愛想がよい

嫌いな人にもニコニコできます。愛想がよいのです。

やさしく親切で、愛想がよい、となれば、愛情がゆたかな人ともいえますし、相手を愛してあげる、大切にしてあげるさまを、何気無しなにげなに発揮できる質があります。

愛情ゆたかな星

まずはこのように考えておいてください。

参考：何気無し〔格別意識しないでするさま〕〔相手にそのように感じさせるさま〕

禄存星は基本的に、誰にでも親切にできるし、愛想もよいので、人から好かれやすく、愛情ゆたかな星です。といたしました。

そうしますと、人気を必要とする仕事——人から好かれる条件じょうけんを必要とする仕事に向いています。どのような仕事があるのでしょうか。

人気を博はくする仕事に向く（向いています）



芸能人

ほかの星に比べて、実際に芸能人には禄存星をもつ人が多いです。あるいは主星が禄存星の人が多いです。

芸能人にんき いのちは人気にんきが命いのちです。

極端に言えば、歌が下手でも、演技が下手でも、人気があればいいわけです。歌が上手、演技も上手でも、人気が無ければ、芸能人として成功できません。

芸能の仕事は一般的な職業ではないですね。

参考・条件〔ある物事が成立するために不可欠は事柄〕

参考・博する〔名声・評判などを得る〕

☞ 一般的な仕事で考えます。

誰にでもやさしくて、親切にできる人で、人から好かれる質に適した職種は営業関係・商売は全般に向きます。

お客様に親切に対応できる、やさしくできる、愛想よくできる人物のほうが、商売は繁盛します。

品物を買に行ったとき、おなじ品で値段もおなじなら親切に対応してくれたお店で買いたくなるでしょう。

営業・商売は全般に向きますが、特にこれは 客商売 と考えてください。

客商売にとっても向いている星です。

商売もさまざまな形態があるわけですが、ネット通販ではなくて、直接お客様と接する営業とか商売に向きます。

このような意味だと解釈してください。

禄存星の人は客商売に向きます。

☞ 自分で商売をはじめたとします。

自分の人体図に禄存星が1つもないということでしたら、お客様と直接、応対するようなセクションには、禄存星をもっている人を雇って、そこに配置すればよいです。そのときに、主星に禄存星があるとなおよいのです。

お客様と接する部門に寡黙^{かもく}な人、愛想がなくて、親切心をもたない人物を配置したら、お店が流行^{はや}りません。

☞ 禄存星はだれにでも親切にできるので、人から好かれやすい、愛想もよいし、愛情もゆたかでやさしい星です。

このようにいっていますが、禄存星をちょっと厳^{きび}しい眼で見たらどうでしょう。

人に親切でやさしいのは何故ですか……自分が好かれたいからです。相手によくおもわれたいからです。

それゆえ、禄存星は親切にやさしくするわけです。

それがよいとか悪いとかを論じていません。

☞ 嫌^{きら}いな人にも、愛想よく、接してあげたりします。

そういう質をもっています。

特に人体図の主星に禄存星がある人はそういえませんが、

「その行為は好かれようとして、意識してやっているのではない」とは言い切れないのです。

その裏側を考えると、やっぱりよく思われたいからです。

といいますのは……親切にしてあげたのに、その人からお礼をいわれなかったとか、チョこん、とでも頭を下げてくれなかったら、親切にした理由がなくなります。

参考・理由 [物事がそうなるに至った事情]

ときには、相手に親切にやさしくしてあげたり、面倒を見てあげたりしたのに、「余計なおせっかいやめてっ」と言われることがあるかも知れません。

「おせっかい止めてよ」といわれたら、“好かれない”という潜在的な目的意識をまったく果たしていないことになります。そのような相手に対して、^{やさ}優しくする、親切にする、その価値も理由もなくなるわけです。

そういう状態になると、親切でやさしい星なのですが、禄存星は現実的考え方をします。

禄存星は親切にする理由がなくなると、逆に冷たくなる。

禄存星が優しくしている人から嫌われたら、親切にやさしくしてあげる理由がなくなるわけです。

そうなると、^{てのひら}掌を返したように冷たくなります。
現実に即応して、きっぱりと結論をだします。

さきほど客商売に向いています。といいましたが、親切で愛想よくするのは、相手がお客様だからです。お客様なので大事にするわけですが、お客様でない人達にまで、愛想よくするというではありません。
そんなことをしていたら、自分が^{ひへい}疲弊してしまいます。

それゆえ「その必要はない」ことについては、現実に即した無駄のない判断をします。

禄存星はとても親切な星ですが、自分にとって不利益になりそうなときは〔損か〕〔得か〕をただちに考えて行動するという面も備えています。

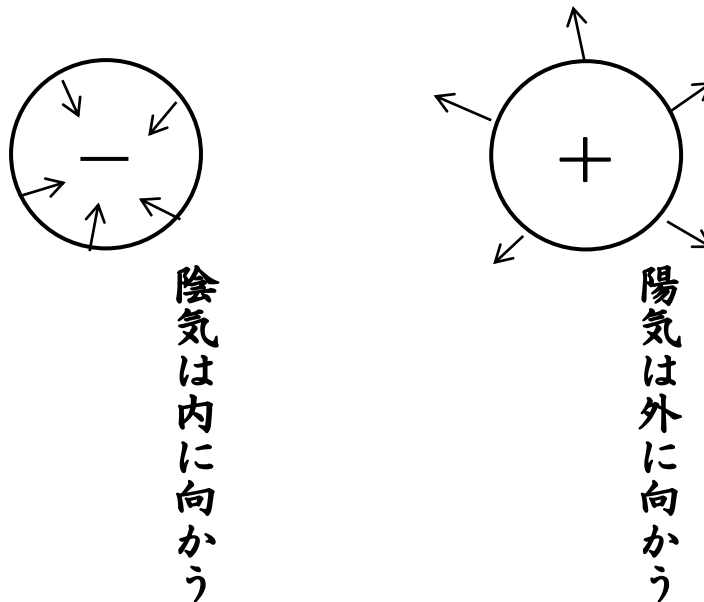
参考：疲弊〔心身がつかれ弱ること〕

⇒ 算命学は「気」には方向があると考えています。

陰と陽を比べたとき『陰気』と『陽気』には方向があります。

陽の気は、基本的に外に向かう性質をもっています。

陰の気は、基本的に内に向かう（内にこもるような）性質をもっています。



このことは魅力本能〔禄存星〕と〔司禄星〕だけの話ではないのです。

（陽）という意味でいえば……その（陽）が何本能の星であろうとも、外へ向かって行く性質があります。

（陰）という意味でいえば…… その（陰）が何本能の星であろうとも、内に向かおうとする性質をもっています。このことは、陽と陰の「気」が向かう方向です。

⇒ 前回の科目は、鳳閣星（陽）と 調舒星（陰）は伝達本能の星でした。

そこで伝達本能の（陽）と（陰）の「気の方角」を考えます。

☞ 陽といえば「外へ向かう気」ですから、伝達が外へ向かうのは鳳閣星です。

それゆえ、あるがままに、その姿のままに伝達します。

☞ 陰といえば「内に向かう気」ですから、調舒星の伝達は内へ向かいます。

自分が言いたいこと・伝達したいことが、内へ向かってしまいます。内へ向かう「気」は、自分のなかで、想像・空想の世界へ膨らんでいくとか、その物事ものごとと自分の気持ちかくとうが格闘して、内に籠こもる姿になったりするわけです。

参考：格闘〔困難な物事に真剣に取り組むすがた〕

参考：物事〔思考・行動の対象となるすべて〕

⇒ 禄存星は魅力の星（陽）です。

魅力本能の場合も、禄存星は主体性の陽気ようきをもちます。
親切でやさしい魅力本能の気は外へ向かいます。

それゆえ「外部に向いた面めんはいい」という意味になります。
す。

禄存星 ⇒ 外面がよい（がいめん・そとづら）

禄存星の魅力本能は、親切で優しい性質をもっていますが、それは外へ向かいます。

それゆえ、外に向けた顔がいい人になります。

家族や内輪うちわに見せる顔はあまりよくないのです。

何のために相手にやさしく、親切にするのかといえば、
人から好かれないから、相手に好かれない、それゆえに
親切でやさしくします。

〔たとえば〕

恋人同士であれば、結婚前は相手に好かれないわけです。

好かれないから、すごく親切でやさしいです。

でも……結婚したら他人ではないし、釣った魚とおなじで、そんなに親切でやさしくする必要もないわけです。女性にはたいへん失礼ですが“自分のものになった”とたいていの男は考えるわけです。

特に主星（人体図の真ん中）が禄存星の人と付き合っていたとすれば、結婚前は〔なんとよい人なの〕〔なんて優しい人なの〕 そのように想って結婚するわけですが、結婚した途端に冷たくなることがあります。

結婚すると、自分のもの（特に男は）という意識が働いてしまい、優しくする理由が結婚前より無くなるわけです。結婚は……そこをよくよく考えてから決めることです。

結婚した後は、家族より他人・外面がいめんのほうへ、気が向かうという傾向がでてきます。

それが“悪い”といているのではなくて、そういう質をもつ星だということです。

★星は人間とおなじです。どの星でも、多かれ・少なかれ……両面を所有しています。これは仕方のないことなのです。

司禄星は陰^{いんき}気をもちます。

陰の気は内に向かうので、「内面がいい」という言い方になります。ようするに、家族・内輪を大切にしますので、家庭的ということです。

司禄星 ⇒ 家庭的

参考：内面〔人間の心理・精神に関する面〕〔心の中・内部に向いた面〕

司禄星は家族にやさしいので家庭的です。というふうに考えるわけです。

おなじ魅力の星でも、禄存星と司禄星は異なります。

外へ向かう——他人へ向かうのは禄存星です。

内に向かう——身内に向かうのは司禄星です。

さて「禄存星は親切でやさしい星です」このように書きましたが、必ずしもそうではありません。

禄存星の人でも、性格の良い（善い）人もいれば、性格の悪い人もいます。

人間性の程度は、星だけでは決められないのです。

その人物の育った環境にもよります。

☞ 「十大主星」すべてにおいていえます。

〔どの星がよい星〕〔どの星が悪い星〕という決まりは、もともとないです。

おなじ禄存星の人でも、禄存星のよい面が多く出ている人もいれば……悪い面のほうが多く出ている人もいます。

つまり「十大主星」どの星にも、よい面と、悪い面は、必ずあると思っておいてください。

☞ 星は人間とおなじです。

どの星でも、多かれ・少なかれ……両面を所有しています。

これは仕方のないことなのです。

参考・人間性〔人間として生まれつきの性質・人間らしさ〕

参考・程度〔ほかの同種のものとは比べたとき、高低・優劣などの度合い〕

☞ 禄存星について、大切なことを加えます。

魅力の星は、魅力本能をもっています。

相手の心をひきつけようとしします。

相手から好かれようとしします。

魅力本能が発揮されて、たくさんの人の心を引きつけたら、その結果として、何になるのでしょうか？

引きつける方法（引きつけようとする方法）は何でもいいです。

〔たとえば〕お笑い芸人が、おもしろい漫才をやって、見物客の心を引きつけたとしします。

その芸人をひいき贔屓にする人がたくさん集まって、ファンクラブを結成しました。

芸人としての地位も上がり、ギャラが高くなって、豪邸も買えました。

そう——お金です。

財になる

魅力本能が世の中で発揮されて、ごひいきすじ贔屓筋が増えれば、必ず「財」になります。

本人は^{かねもう}お金儲けをしようと、考えていなくてもです。
本人がお金にこだわっていません。

漫才師でも歌手でも「お金が目的ではない」という意識
でやっている人もいます。

漫才師はおもしろい漫才、歌手なら歌唱力を^い活かして、
大勢の人を楽しませたい、お金にこだわらない気持ちで
やったとしても、大勢の人の心を引きつけたら、必ず、
収入は増えます。

歌い手が人の心を感動させたら、必ずお金になります。
お金が目的であっても、お金が目的でなくても、財にな
ります。

アイドルのなかには、芸が下手で、歌が下手で、しかし
違うやり方で、多くのファンの心を魅了する人物もいる
でしょう。

人から好かれれば収入になります。

歌がどんなに上手であろうと、聴衆の心を引きつけるこ
とができなければ、お金になりません。

魅力とお金——これは芸能界だけの話ではなくて、どのような職業にもいえることです。

職業がなんであろうと、多くの人々の心を引きつけることができれば、必ず財産になります。

〔たとえば〕 レストランをオープンします。といったときに、味で勝負をするのであれば、美味しい料理を創作して、お客様の心を引きつけます。

レストランとして、味覚・サービスを提供して、大勢のお客様を引きつけたレストランは財になります。

しかし、選りすぐりの食材をつかい、凝^こった内装を施^{ほどこ}したレストランであっても、なにかしらの理由で、お客様の心を引きつけることができなければ、客離れによって、お店はつぶれるでしょう。財にならないのです。

100 円ショップなどで、皆さんも「これ 100 円安いな」とおもって、買ったりすることはあるでしょう。

そのときに、なぜ、お金を支払うのですか？

品物を買わなければ、お金を払わないで済みます。

なぜ買うのかといえば、人間は 100 円分に相当する価値をその品物に見いだして“心を奪われた”ときに 100 円支払うわけです。

1 万円分……心を奪われたら 1 万円支払います。

100 万円分……心を奪われたら 100 万円支払います。

“心を奪われた”ときです。

どれほどよい品物でも、心を奪われなかったら、お金を払って買おうとはしません。 どうですか？

〔たとえば〕洋服を買う、生活用品を買う、さまざまですが「これ千円で買ったの」といったら、それは千円分の心を奪われたから、千円支払ったわけです。

どんなに安い品物でも、どんなによい品物でも、自分の心を奪われなかったら、お金を 1 円も払わないはずですが。相当に高価なものでも“心を奪われた”となると、それだけ支払うわけです。

1 億円で家が売りにでていました。1 億円もっているのかどうかは別にして、「私のために建てたような家だわ」

と、恋い焦^こがれるような造りであれば、1億円を支払います。

「どれも一律 100 円です」そういわれても、心を奪われなかったら、買わないわけです。

それゆえ、お金儲けしようと思うのであれば、どのような方法でも、とにかく大勢の人の心を奪うやり方を見つければ、そのビジネスは成功します。

お金が目的でないにしても、それは財になります。

☞ マザー・テレサは三度来日しています。

1981年4月「ビューティフルなことって何」

1982年4月「飢えることとは？」

1984年11月「飢えと生命」

インドから、マザー・テレサさんが日本に来たときに、日本中から寄付がたくさん集まったそうです。

相当の金額が集まったそうです。

* マザー・テレサ 1910-8-26 [1997-9-5] 87 歳没

大運は7歳運の逆まわり

					大運
	癸 甲 庚		玉堂星	天堂星	7 癸未
子	亥 申 戊	石門星	玉堂星	牽牛星	17 壬午
丑	戊 辛	天将星	調舒星	天極星	27 辛巳
	甲 壬 丁				37 庚辰
	壬 庚 戊				47 己卯
					57 戊寅
					67 丁丑
					77 丙子
					87 乙亥

マザー・テレサの言葉：

「聖なる人になるということは、少数者の特権ではありません。それはあなたとわたし、つまり皆にとって義務なのです。」

「私たちが神の栄光のために働くなら、聖なるものとされるでしょう。」

ドアベルが鳴りました。(夜の十時頃だったでしょうか) 私がドアを開けると、1人の男の人が寒さに震えて立っていました。

「マザー・テレサ、あなたが大きな賞を頂きになったと聞いた時、私も僅かですが何かさし上げたいと思い立ちました。これは今日私がもらったすべてです。何卒、お受け取りください」

それは確かに僅かでした。

でも、彼の持ちものすべてだったのです。

それは私にとってノーベル賞以上の感動を与えてくれました。

(マザー・テレサ 愛と祈りのことば 渡辺和子 訳より)

「ある夜のこと、一人の女の人は体^{からだ}にうじがわいていて、死にかかっていました。私は彼女の体^{からだ}中^{ぢゅう}のうじを取り、体を拭きました。時間がかかりましたが、拭きおわってベッドに寝かせたとき、彼女は私の手を取り、やさしい微笑をたたえて、私にたった一言『ありがとう』といて息をひきとりました」

マザーが受け取ったのは、「神の愛」であった。

マザーは「これが最も貧しい人のすばらしさだ」マザーはいう。貧しい人はマザーが与えたものよりもっと多くの「神の愛」をマザーに与えたのだ。

「それはなぜだかわかりますか。それは貧しい人の一人ひとりが神様の子供であり、愛し、愛されるために、神さまとおなじ愛する手で造られたからです」 「もし間違いが起きても子供の命を

奪わないでください。助け合ってその子供、胎児を受け入れるようにしてください。まわりの人に助けを求めて、お互いにそして神様に、また家族に、顔を向けられるようにせねばなりません。なぜなら、ひとつの過あやまちが新たな悪を生んではならないからです。あなたがたは、みんな若くて、未来と、新しい生活がまっています。結婚生活であれ、修道生活であれ、神さまがどのようにあなたに呼びかけようとも、汚れのない清い心、愛と喜びと平和に満ちた心をあたえられるようにしてください」

(上智大学での講演だそうです)

「マザー」は指導的な修道女の敬称だそうです。

マザー・テレサは、世の中の貧困に喘あえぐ人を、少しでも助けたいとする活動をしていたわけですが、魂の叫びに共感した人は日本にもたくさんいたわけですね。

マザー・テレサのファンになったともいえるでしょう。彼女に魅きつけられともいえるでしょう。

マザー・テレサ聖なる行動に、心をするどく衝つかれたともいえるかも知れません。

彼女から発せられる靈性れいせいの高さに心を奪われた。とすれば、心を奪われた分のお金を寄附するでしょう。

それらの寄附によって、マザー・テレサの修道会には、何億・何十億というお金が集まるでしょう。

どのようなことでも、大勢の人間の心を惹きつけたら、魅了したら、それは財になります。

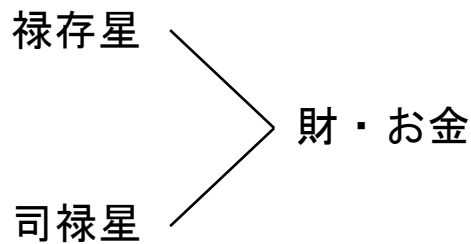
☞ マザー・テレサに対する批判もあります。

それらのこともネットに掲載されていますので、お読みになるとよいでしょう。

個人、個人さまざまな観方、意見があって当然でしょう。

それらを選択されるのは、貴方ご自身のところです。

⇒ 禄存星（陽）と 司禄星（陰）は、どちらも魅力本能の星です。そして財の星です。



禄存星・司禄星は『財の星』あるいは『お金の星』という意味があります。

財運を占うときには、この禄存星・司禄星をつかっていくようになります。

この星をつかいて、この人は財運がある宿命だとか、今年財運がよくないですよ、とか、そういう占いをするようにもなります。

☞ チョット間違えないでいただきことがあります。

禄存星・司禄星は『財・お金の星』なので、禄存・司禄をもっているとお金持ちになる。このような意味とは全く違います。禄存・司禄をつかって財運を占うわけです。

占い方はまだやっていませんが、これから出てきます。

〔たとえば〕 ㊤さんは人体図に禄存星・司禄星をもっています。でも「㊤さんの禄存星・司禄星が相当に壊れてしまっている」ということもあるのです。

そうなっていると、「お金で苦しみます」そういう占いになる場合もあります。

それゆえ、禄存星・司禄星をもっています。といっても、その人にとってよい財運なのか、悪い財運なのかわかりません。財ということでいえば、それに付随するさまざまな事象を総合的に観ることで占いになっていくのです。

☞ 禄存星を人物でいえば「父親の星」です。

父親と縁が深いとか、縁が薄いとか、父親との関係はどうなのか、このような事象を占うときにも禄存星をつかいます。

人物 ⇒ 父親 そして⇒ 男性にとっての愛人

もうひとつ……禄存星には“愛人の星”という意味があります。

父親と愛人はまったく違うじゃないか、と思うかも知れませんが

ろくしんほう
六親法という法則があります。上のクラスで学びますが、六親法でみると、父親にもなりますが、男性のにとっては愛人という意味

になります。(女性のとしての彼氏ということではないですよ)

男性にとっての愛人ですから、当然、妻ではありません。

妻ではない女性を意味します。

人物の見方はもう少し先になってから詳しく出てきますけど、基本的には……その星をもっていると、その人物と縁が深いとか、^{かか}関わりがあるとしてみるわけです。

〔たとえば〕 禄存星が人体図に2つ・3つあったとしても、^{じっ}実の父親が2人も3人もいるはずはないです。

そうしますと、禄存星がたくさんある男性は、愛人と縁が深いとか、そのような意味にもなってきます。

簡単にいえば、禄存星がたくさんある男性は、女性関係が多くなりやすいのです。

必ずとは言い切れませんが、そのように観ることもあります。

禄存星がいくつもある男性は、女性関係が多くなりやすい。

それがよいか悪いかわかりませんが、女性にもてるわけです。

魅力の星ですから、だれにも優しく親切にできます。

外面がよいので、女性関係が多くなりやすいわけです。

特に男性は、女性関係のほうに出やすいです。

女性で男性関係が多くなる場合もありますが、これとは別の星になります。そのことはもうしばらく待ってください。

勉強が進みますとおわかりになりますが、「女性でも禄存星がいくつもあって、男性関係が多くなる」という女性もいます。それは宿命によるのです。

この宿命だと「男性関係が多くなる……」というふうにです。

その観方は勉強が進んでいくとわかります。

☞ ここでの話は、禄存星は基本的に男性にとっての愛人です。

そのように思っておいてください。

☞ 禄存星はやさしい星ですけど、考え方は現実的です。

このようにいいました。

思考法 ⇒ 現実思考〔考え方は現実的〕

そして〔これは損だとか〕〔これは得だとか〕損得の感覚にもすぐれています。

損得の感覚に秀でる → 合理的

さきほど「禄存星は商売に向いている」という話が出てきましたが、損得計算ができなければ、商売には向かないはずです。

その場、その場での損得感覚はしっかりしています。
それゆえ、商売にも向くといえます。

やさしい星ですが、自分に不利・不利益になることに関しては、なかなか“したたか”です。

じょう情に流されない判断をします。

合理的なものの考え方を併せもっています。

参考・合理的〔物事の進め方に無駄がなく、能率よく物事を行うさま〕

☆ 司禄星

しろくせい
司禄星 ⇒ 魅力（陰）

司禄星も魅力の星ですけど、（陰）の魅力本能です。

禄存星のように「直接的に親切にする・やさしくする」という、主体性のある方法はありません。

もうすこし地味なやり方をします。

司禄星の魅力は“信用・信頼”といたしました。

まわりから信用されて輝く星が司禄星です。

一般的に考えていただきたいのですが、司禄星の信用は「この人は確かな人だ、信じて疑わない」という魅力を発揮して、まわりの人たちから得られた“信用・信頼”という評価によって、人々の心を引きつけます。

まわりから信用される人間になるためには、どのような生き方をしなくてはならないのでしょうか？

それは誠実・真面目です。

まじめ

不真面目だったら信用されません。

「コツコツと絶え間なく心身を^{ろう}勞して、物事をきちんと成し遂げる」という生活をしていれば、自然とまわりの人たちが信用してくれるようになるはずです。

いつもおなじように ⇒ こつこつと努力する

目立たなくて、^{かげ}陰に^{かく}隠れてしまうような存在であっても、地道で着実にチカラを尽くして^{はげ}励むには、時間はかかるでしょうけど、まわりの人の信頼を勝ち得ることができるとは必ずです。こういう特性をもつ星です。

真面目に努力を積み重ねる質の星なので、性格は^{じみ}地味といえます。

地味な性格

司禄星は地味な性格で、地味な人に見られやすいです。

禄存星は派手な性格で、派手な人に見られやすいです。

地味ということは、服装や^{ようす}様子が控えめで、目立たないけど、落ち着いていると感じられます。

落ち着きがある

参考：様子〔すがたかたち。容姿〕

司禄星は地味だけど、真面目に努力します。

結果的に周囲の人から信用してもらえます。

これらの事柄を一言であらわすとすれば――。



堅実

「真面目に努力して、堅実^{けんじつ}に生きていく」といえます。

司禄星は「堅実な星」と考えておくとよいでしょう。

これが司禄星の持ち味です。

禄存星の魅力、司禄星の魅力、それぞれに魅力の発揮の仕方があるわけです。

さきほど、世の中で魅力本能を発揮して、大勢の人の心を引きつけたら、お金・財になります。といいました。

お店でも企業でも、派手ではないけど、地道にコツコツ

努力して、この道一筋^{ひとすじ}何十年、堅実にやってきた会社だと評価されていけば、あの会社の製品なら間違いないなと、大勢の人達から信用を勝ち取っているはずです。

なにか品物を買うときに「どっちのメーカーにしようか？」と迷ったとき「この製品はこのメーカーのほうが伝統もあるから信頼できる」と、いわれる会社になれると強いです。

司禄星は、信用・信頼といった特徴をもっている星ですから、急に成功させようとか、あるいは、一発当てようとするやり方は向きません。

“一発当てよう”というやり方は失敗する。

人体図に司禄星のある人で、特に主星が司禄星の人は、どのような仕事に就いても、一発当てようとしてはダメです。そのようなやり方は失敗に終わります。

「塵^{ちり}も積^つもれば山^{やま}となる」ごくわずかな信用の積み重ねが財になる星ですから、見栄^{みえ}を張らないでしっかりと、あぶなげなく、一步一步を地道に進むことで、司禄星の人は伸^のびて行けます。星が活^いきて光^{ひかり}かがやききます。本来はそういう質をもちながら、コツコツと努力せず、

一発当てようと画策^{かくさく}して、勝負をかけると、必ず失敗に終わります。
参考：画策 [もくろみ。はかりごとをめぐらす]

まあ、1 回目は成功ということもあり得ますけど、それがよいやら悪いやらで、また一発当てようとしてやると、最後は必ず失敗に終わります。

つまり、司禄星本来のやり方ではないのです。

これはどのような事柄にもいえます。

司禄星は、何事にも、地道に、一步一步伸ばしていこう、そのやり方をすると成功します。

〔たとえば〕 司禄星の子供が生まれて、学校に通い出したとします。

親御さんが、司禄星の子どもの成績を伸ばそうと思って猛勉強させて、急に成績を上げようとする、失敗に終わります。

一時的に成績が上がるかも知れないのですが、結果的には失敗に終わります。

少しずつ成績を伸ばしていこうとするのがよいのです。

参考：知れない [どういう事態になるか予測できない]

1 学期は 50 点だったから、2 学期は 55 点を目標とするのです。

1 学期 50 点だったのに、いきなり 90 点を目標にしてはダメなのです。

1 学期 50 点だったら、2 学期は 55 点が目標です。

3 学期は 60 点が目標です。

このように、一步一步、伸ばそうというやり方をして、それを続けていくと、結果的に伸びていきます。

時間はかかりますが、司禄星はそういう質なのです。

このことは大人になって、どのような仕事に就いても、おなじです。

地道なやり方で、目標を目指して進むことです。

ウサギとカメの競争みたいなもので、カメに勝利の旗が振られるのです。

それが司禄星の途みちです。

☞ 司禄星の（陰氣）は、内に向かいます。

家庭的な星 ⇒ 家庭・身内を大切にす

司禄星の魅力の気は、内^{うち}に向かいます。参照⇒11頁

身内のほうに向かって行きますから、家庭・身内に心をくばります。そういう性格の星です。

家庭運を占う、結婚運を占う、そのようなときに、家庭の星である司禄星をつかって、宿命を観てゆくようにもなります。

この宿命は家庭運がよいとか、これは結婚運の悪い宿命だとか、そのような宿命の観方は、そのうち出てきますので、そのときに改めてご説明します。

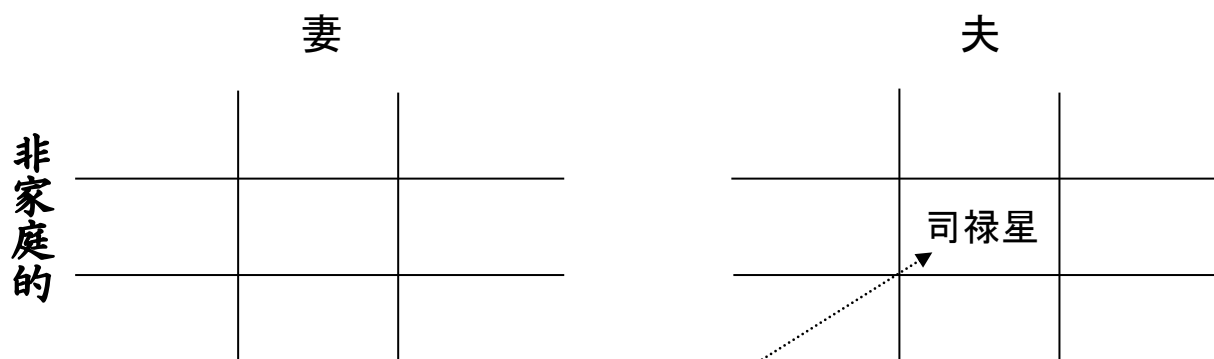
☞ 家庭運がよい・悪いとか、結婚運がよい・悪いとか、それらのことは宿命に出てきますけど、この部分は誤解しやすいところでもあるのです。

確かに——司禄星は家庭とか身内を思いやる星ですが、この星をもっている人は、必ず家庭的に幸せになれるのかといえ、それは決まっています。

家庭や身内を大切にすることが、却^{かえ}って、家庭がダメになってしまう。ということもあり得^えます。➡

〔たとえば〕 つぎのような事象も起こりやすいのです。

宿命（1）妻と夫



ここでは、夫の主星は司禄星だとします。

妻の宿命に星を載せていませんが、**非家庭的**な人体図です。（非家庭的な人体図というのがあります。もう少し勉強が先へ進むと、このような観方も出てきます。）

宿命（1）妻と夫では、夫の主星は司禄星ですから、家庭的な夫といえます。それに対して、妻は非家庭的な宿命というご夫婦もおられます。

そうしますと、この組み合わせで結婚している場合には、夫は司禄星が主星なので、家庭や身内を大切にします。

この夫の姿を、つぎのように言い換えることもできます。

「夫は家庭内なことに、口を出してくるようになります」このようにもいえるのです。

この夫は家庭や身内を大事にしますから、どうしても、

「気が内に向かう」ことになります。

夫の気持ち^{うごめ}が家のなかのことに蠢いてしまうのです
家のなかはどうなっているのか……。

子育てはどうなっているのか……。

どうしても妻のやり方に、いろいろと口を挟^{はさ}んでくる。
そのような傾向が出てきます。

「ここはこうしないとダメじゃないか」とか、「掃除はこ
うしたほうがいい」「洗濯はこの洗剤をつかったほうがい
いんじゃないの……」とか、さまざまです。

よくいえば、“家庭をおもいやる”といえますけど、悪く
いえば、家のこまごまとしたことにも、口出しをする人
になります。

家のことに口出しをする

これは司禄星の質・持ち味なので、悪いともいい切れま
せん。しかし、これが原因で離婚になるということもあり
得ます。つまり、夫が家庭的過ぎるために、離婚にな
る場合もあるわけです。

ここでは“非家庭的な妻”という設定での話しです。

妻にいわせれば「家のことに無関心の夫のほうが楽^{らく}」ということなのです。

ご夫婦のあいだで、そういうことってあるでしょう。

それゆえ、司禄星は家庭的な星だから、家庭的に幸せになれるのか……という問題はまったく別のことです。

言うまでもないのですが——妻の意向をちゃんと訊いてくれて、物事を処理していく司禄星の夫もいます。

家庭的な妻であれば、「うちのだんな、こまめで助かるわ」と喜んでくれるでしょう。

しかし、非家庭的な妻であれば「どうでもいいのよ」となるかもしれません。

実に……さまざまなのです。

生まれも、育ちも、異なる男と女が、一本のおなじ道を歩んで行こうとするわけですから、まったくぎくしゃくしない、そのほうがむしろ不自然かもしれません。

ギクシャクしないということであれば、どちらかが我慢をしているとも考えられます。

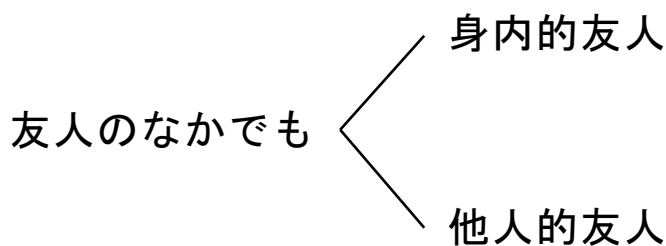
参考・ぎくしゃく [円満な関係が損なわれて、しっくりいかなくなる]

☞ 司禄星には家庭的という意味合いがあるわけですが、これは人間関係においても、似たような傾向が出ます。

〔たとえば〕 友達のグループがあったとします。

そのグループのなかでも、◎と◎は自分にとって身内的な友達であって、○と○とは友達だけど、自分にとっては、他人という範疇はんちゆうに入るといって、線引きみたいなものを無意識のうちに形づくる傾向があります。

こっちは人みうちてきは身内的な友達、こっちは人は友達だけでも他人的な友達というふうな線引きをしてしまうわけです。



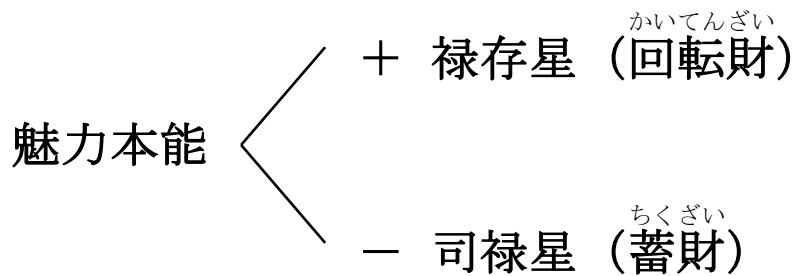
司禄星の質は「陰気の星」気が内に向かうわけですから、身内的に属するような人物を大事にします。

他人的な相手に対しては、疎通そつうが薄らぐ、そっけないといつか、そのような質が出ます。

通常の間人間関係も、身内と他人というふうな区別をしがちです。

参考：疎通〔意見・考えなどが支障なくとおる〕

☞ 禄存星と司禄星は財の星という意味がありました。
その財にも「陽の財」と「陰の財」の違いがあります。



禄存星の陽気は、外へ向かうので、財の気も外へ向かいます。財を回転させてもちいる気が働きます。

^{かいてんざい}
回転財という意味があります。

禄存星 ⇒ 回転財

禄存星はお金を外へ出して、利用するのが上手です。

司禄星の陰気は、内に向かうので、財の気も内に向かいます。財を貯めようとする気が働きます。

^{ちくざい}
蓄財という意味があります。

司禄星 ⇒ 蓄財

司禄星はお金を貯めるのが得意です。好きです。

☞ 禄存星と司禄星にはこのような違いがあります。

司禄星は節約思考です。

貯めるのが好きです。お金をつかうのはあまり好きではありません。散財することはまずないでしょう。

司禄星は“けち”ともいわれますが、そこに何か意図^{いと}があってケチケチしているのではありません。

財にしっかりしていて、あぶなげのない性格なのです。

堅実な星ですから「自分が気がかりになる」そのようなお金の使い方をしないのです。

お金に堅実

金銭感覚はしっかりしています。

ただ、司禄星の人は、陰星で気が内に向かいますから、細かいところまで、気持ち^{うごめ}が蠢いてしまいます。

〔たとえば〕 ㊸さんと食事に行ったときに、彼女が注文したのは 150 円高かったのに、割り勘でおなじに払ったとか、そういうところにも気が向かいます。

司禄星の人からお金を借りると、いつまでも貸したことを覚えていきますから、早く返さないといけません。

どうしても、気が内に向かってしまうので、細かいところにも気がうごいてしまって、気になるわけです。

いい加減であやふやなことは嫌なのです。

参考・散財〔金銭をやたらに費やすこと〕

参考・けち〔必要以上に物やお金を惜しむこと〕

参考・堅実〔安全を心がけ、考え方・やり方が手堅く確かなこと〕

☞ 人物でいいいます。

司禄星の人物 ⇒ 妻

六親法をつかっていたとりますと、司禄星は妻の星になります。

昔の中国では、七夕の織^{たなばた}り姫^{おひめ}の星は、司禄星と呼ばれて
いたわけです。

男のほうの星は、彦^{ひこぼし}星・牽牛^{けんぎゅうせい}星です。

思考法は：

司禄星 ⇒ 経験思考

特に主星が司禄星の人物の考え方は経験思考です。

司禄星は努力して、地道に一步一步、信用・信頼を伸ばしてゆく星です。

堅実に人生を積み上げてきた、その一つ一つの経験が、この人物のすがたを形成^{けいせい}しています。

参考：形成〔ととのった形に作りあげること〕

一つ一つの石^{いし}をしっかりと確実に、あぶなげなく積み重ねていきますから、簡単には崩れません。

ところがです——急激に伸ばしたときなどは経験不足で、すし、“一発当たった”場合というのは、培^{つちか}われたものではないのです。

しっかりとした土台もなく、積み上げたものですから、崩壊^{ほうかい}も速いです。

一步一步しっかりと、積み上げて来ました。となれば、信用・信頼を勝ち得ますから、最終的には成功できます。そのためには、一つ一つの経験が血となり肉となって、身につく必要があるはずです。

その意味で「経験思考」といわれています。

さまざまに経験したことが自分の身につく星です。

このことはほかの星よりも優れている質のひとつです。

たとえ失敗しても、その失敗は司禄星が成長していくう
えで^{じょう}滋養となつて、おなじ失敗を繰り返さない星です。

経験したことを糧として、おなじ失敗を繰り返さない。

特に司禄星が主星の人、人体図に司禄星を 1 つでもある
人は、仕事でも結婚生活でも、何事にも一つ一つの経験
が^{かて}糧になります。たとえ失敗しても、失敗の経験をした
ことで、おなじ失敗を繰り返さないという質をもちます。
地道ですけど一つ一つ堅実に進む質を活かすことは宿命
に^{そく}即した生き方です。結果的に大きく伸びてゆきます。

☞ 急に伸ばそうとするのは、この星の質ではないのです。
なんの経験もなく、急に伸びることができたとしても、
それはダメになります。

仕事・私生活・何事もおなじと考えてください。

参考：滋養 [育て養うこと]

参考：糧 [成長していく上で、精神的にもささえとなるもの]

【初年】 3 1 回目【十大主星特性③】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 3 2 回目【十大主星特性④】 攻撃本能の星